



# けいし



<教育目標> 上妻を愛し、夢や希望に向かって、  
たくましく生きる子どもの育成

令和3年1月8日

## めでたさの続きに居りて四日かな 大橋麻沙子

新春の光を切り裂くように、箱根路を駆伝ランナーが駆け抜けていきました。「たすきをつなぐ」ことは「伝統をつなぐ」こととして、ひたむきに駆け抜ける姿に感動を覚えつつ、新年がスタートしました。本校でも、3学期は卒業生から在校生へと、たすきをつなぐ期間になります。寒風に首を縮めることなく、しっかり背筋を伸ばし、たすきを受け継がせたいと思います。



## 新年 明けまして おめでとうございます

新春の穏やかな陽光のもと、令和3(2021)年が始まりました。保護者の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと思います。

本年も、本校児童の育成のために、ご支援、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大がとまりません。首都圏では、再び緊急事態宣言が発令される事態となりました。数か月前までは、人と会い、おしゃべりし、交流することが当たり前の生活としていたしましたが、拡大防止により、私たちのこれまでであった「普通の暮らし」ができなくなりました。

人との接触を減らし自宅で過ごすことが多くなり、感染防止対策として「新しい生活様式」に切り替えることを求められています。

右の詩は、『子どもが育つ魔法の言葉』で有名なドロシー・ロー・ノルト(米 教育学者)の詩です。

いつかは訪れるであろう「普通の暮らし」を待ち望みながら、がまんの時を共に過ごす姿が、今、子ども達に伝える、教える大切なことのような気がします。

「共にがまんを経験した子どもは、共に幸せを感じることをおぼえる」  
のかもしれない。



『子ども』

批判ばかりされた子どもは、  
非難することをおぼえる

殴られて大きくなった子どもは、  
力にたよることをおぼえる

笑いものにされた子どもは、  
ものを言わずにいることをおぼえる

皮肉にさらされた子どもは、  
鈍い良心のもちぬしとなる

しかし、  
激励をうけた子どもは、自信をおぼえる

寛容にであった子どもは、忍耐をおぼえる

賞賛をうけた子どもは、  
評価することをおぼえる

フェアプレーを経験した子どもは、  
公正をおぼえる

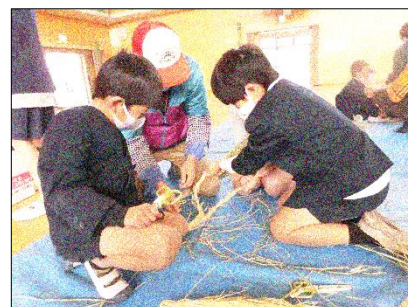
友情を知る子どもは、親切をおぼえる

安心を経験した子どもは、信頼をおぼえる

可愛がられ抱きしめられた子どもは、  
世界中の愛情を感じとることをおぼえる

## 1月の主な行事

- 8日(金) 授業開始日
- 15日(金) 朝の読み聞かせ
- 22日(金) 修学旅行保護者説明会
- 28日(木) 持久走記録会
- 29日(金) クラブ活動見学(3年)



注連縄(しめなわ)  
(三年) 12月22日 作り

## 今後の主な行事について

1月から3月までの主な行事について連絡いたします。

○持久走記録会	1月28日(木)	低・中・高学年ごと開催
○修学旅行(6年 長崎市)	2月10日(水)~11日(木)	
○6年生を送る会	3月5日(金)	
○卒業式	3月19日(金)	
○修了式	3月24日(水)	

※「縄跳び大会」「学年分会」(PTA行事)は中止します。



全校児童が一堂に集まる、多くの保護者が集まる場を避けるために、「縄跳び大会」「学年分会」(PTA行事)は中止します。

全校朝会(毎月実施)は、引き続き放送による朝会を3月まで継続していきます。

延期しています学習参観(12月実施予定)については、1~2月の実施を検討していますが、感染状況によっては見合わせることもあります。

### 「交通教室」(4~6年 12/2)

警察署の方から、「子ども達の聞き方が素晴らしい。」とほめていただきました。



小学3年生から多くなる自転車による交通事故。一時停止や安全確認が必要な場所、自転車でやってはいけないことなどを具体的に話し合ってみてください。時には子どもが自転車に乗っている姿を確認して、危険な乗り方をしていないかをチェックすることも必要です。

過去には、小学生が起こした自転車による人身事故で、高額賠償請求が発生したケースもあります。

シラサギを助けたい！  
十二月中旬に聞いた、四年生の子とシラサギのお話です。

四年生の子とシラサギが、学校から帰る途中、川の近くでシラサギが倒れていたのを見つけたそうです。子ども達はびっくりして、近くにいたおばあさんに連絡しました。子ども達は、一度家に帰りまして、シラサギはどうしているかなあと心配になったので、またもどってきたそうです。

そしたら、おばあさんたちが、倒れていたシラサギを、新聞紙を敷いた段ボールに入れて、毛布でくるんでいたそうです。

四年生の子とシラサギは、毛布にくるまっているシラサギに、「元気になるね！」「元気になるね！」と励ましながら体をさすってやっていたのですが、残念ながら、次の日にシラサギは死んでしまいました。

そこで、かわいそうに思った四年生の子とシラサギは、亡くなったシラサギのためにお墓を作ったそうです。

いいお話ですね。鳥の命を大切にしている優しい心が育っている宿っているなあと思いき嬉しくなりました。

